



写真：「グローバル化に対応した中学校英語授業力アップ研修」  
「中・高等学校外国語科授業づくり研修」

- ◆ 1 ページ
  - ・ 研修紹介(グローバル化に対応した中学校英語授業力アップ研修, 中・高等学校外国語科授業づくり研修)
  - ・ 学校紹介(長東小学校)
- ◆ 2 ページ教育最前線
  - ・ I 「アクティブ・ラーニング」を見据えた授業『特別支援教育編』
  - ・ II 教育委員会発！情報FLASH「高等学校アクティブ・ラーニング紹介」

## 研修紹介

### [Can-do]リストの形での学習到達目標の設定と授業改善

本研修では6月と10月の2度にわたり、国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平木裕 教育課程調査官に、主に次の2点を中心にお話いただきました。

- ① 求められる言語活動
  - ・ 相手意識をもつこと
  - ・ 伝える必然性のある活動にすること
- ② 単元のゴール(付けたい力)
  - ・ Can-do (英語を用いて何ができるか) から設定すること
  - ・ 単元末までにできるようになることを意識すること

研修で使用された平木調査官のパワーポイント資料は、内部Webページに掲載しています。是非御活用いただき、授業実践の更なる充実にお役立てください。

### ★お勧め資料



## 学校紹介

### 長東小学校

### 学校と保護者がつながって子どもを育てる 「つながるノート」の活用を通して~

長東小学校では、「学校と保護者がつながって子どもを育てる」をキーワードに、

- ① 学校の考えをきちんと保護者に伝えること
- ② 保護者の意見や思いを聞くことを大切にしています。

具体的には、学校の考えを伝え、保護者の思いを聞くツールとして「つながるノート」(連絡帳)を作成しています。これには、子どもたちに、明日の予定や振り返りだけでなく、「心の元気」「体の元気」を毎日記録させ、学校と保護者が共に子どもの状態を把握します。そして、それぞれの立場から思いや気付きを記載することで、両者の考えや思いを理解しながら、連携して子どもたちを育てています。

また、学校の考えをはっきりさせ、全職員が意識統一して保護者へ伝えることができるように、学習スタンダードや生活の手引きを掲載した「長東小ガイドブック」を作成し、全保護者に配付しています。



### 「つながるノート」の紹介

①宿題ができた。(○ △ ×)		心の元気	😊 😐 😞
②トイレノートができた。(○ △ ×)			
③読書をした。(○ △ ×)		体の元気	😊 😐 😞
・学習した時間(①+②)	学習時間	学習時間	
・テレビ・ゲームなどの時間	学習時間	学習時間	
・忘れ物をしなかった。(○ △ ×)			
一日のふりかえり			
保護者通信欄	保護者サイン欄	担任と保護者が気付きを記載する	



つながるノート



長東小ガイドブック

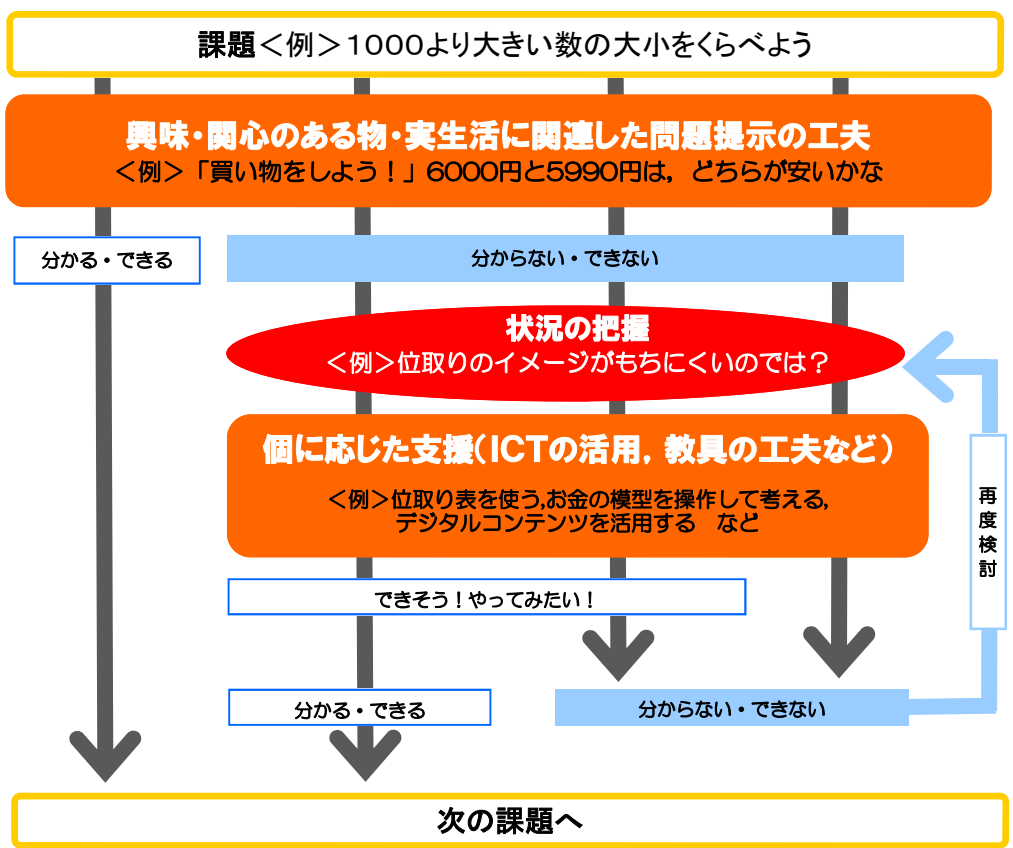
# 教育最前線 | シリーズ「アクティブ・ラーニング」を見据えた授業⑧

特別支援教育における

特別支援教育編

## 子どもの主体的に学ぶ意欲を引き出す工夫 -個に応じた支援-

子どもが能動的に学習課題に関与していくためには、「自ら学びたい」という主体的に学ぶ意欲を引き出すことが何よりも重要です。例えば、問題提示の場面では、**児童生徒の興味・関心のある物や実生活に関連した設定を工夫**すること。また、**ICTの活用や苦手さを軽減するような教具の工夫**など個に応じた支援を行うことによって、主体的に学ぶ意欲が引き出されます。子どもの学びの状況を把握し、個に応じた支援をしていくことで「できそう！ やってみたい」という気持ちを引出し、「分かる！ できる！」につなげていきましょう。



# 教育最前線 II 教育委員会発! 情報FLASH



指導第二課より

## 体験! アクティブ・ラーニング型授業 ~高等学校 物理~

高等学校では、**生徒同士の「話し合い」「教え合い」などの言語活動を取り入れた能動的な学習**に注目が集まっています。今回は、10月に美鈴が丘高校で行われた産業能率大学の小林昭文教授による物理の模擬授業を紹介いたします。授業(65分間の設定)は、学習内容の説明(15分間)、「ピア・ラーニング」(35分間)、振り返り、確認テスト(15分間)で構成されています。

「ピア・ラーニング」とは、生徒がチームで協力して問題を解いていく学習場面のことです。この学習過程においては、チーム外の生徒から教えを乞うことも自由にするなど、**生徒の自主性が尊重**されています。

この授業プロセスを実施する際のポイントは、各プロセスごとに下の図に示しています。アクティブ・ラーニング型授業の1つの例として参考にご覧ください。

小林先生の「物理」の授業プロセス(65分授業)	ポイント	 <p>受講者の感想より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アクティブ・ラーニング型授業の1つの型として、自分の授業にも取り入れていきたいです。</li> <li>「ピア・ラーニング」の場面では、教えない勇気ももちたいと思います。</li> <li>人と関わって学ぶ楽しさを体験できました。生徒にも関わって学ぶ楽しさを味わわせたいです。</li> </ul>
<b>1. 学習目標, 学習内容の「説明」(15分間)</b> ○ パワーポイント資料提示 →短時間(必ず15分以内)で、生徒に学習の見通しをもたせる	<b>目標を明確にする</b> ・態度目標: 考えを話す 質問する 説明する 協力する チームに貢献する ・内容目標: ○○を理解する ○○をイメージできるようにする	
<b>2. 問題解決「ピア・ラーニング」(35分間)</b> ○ チームで問題解決 ○ 解答(解説)プリントを見て確認 →なぜその解答になるのか、チームで教えあって理解を深める	<b>生徒への介入で気づきを促す</b> ・全体に介入 ・チームに介入 ・個別に介入  <p>チームで協力できていますか</p> <p>確認テストまであと10分ですが、順調ですか</p>	
<b>3. 振り返り, 「確認テスト」(15分間)</b> ○ 確認テスト, リフレクション・カード記入	<b>振り返りは行動計画を促す</b> ・体験する→振り返る→気づく→計画する	